

令和4年度 前・後期学校評価

伊予市立佐礼谷小学校 令和5年3月

- 【アンケート結果】 4：大変よい 3：よい 2：やや改善を要する 1：改善を要する
 【評価基準】 A：肯定率90% B：肯定率80%以上 C：肯定率60%以上 D：肯定率60%未満
 【目標値評価】 A：全体肯定率90%以上 B：全体肯定率80%以上 C：全体肯定率60%以上 D：全体肯定率60%未満

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	前期・後期	目標値評価	学校による考察・改善	評価資料	評価基準	肯定率	アンケート結果(%)			
									4	3	2	1
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	複式及び個に応じた指導法の工夫と改善を行い、基礎・基本の確実な定着に努めているか 目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	肯定率が高かった。教職員間で複式の授業における課題を検討したり、理論研修を行ったりしている。タブレットの活用も含めた複式及び個に応じた指導方法の工夫と改善に取り組み、基礎・基本の定着に努めている。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	25	75	0	0
			後期	C	前期から評価を下げた。後期は、各学級担任が複式の研究授業を行い、指導改善に努めたが、基礎・基本の定着はまだ十分ではない。今後一層、授業研究後の協議や日々の効果的な実践について情報共有を行い、実践につなげていきたい。	児童 保護者 教職員① 地域住民	C	75	50	25	25	0
		体験的・問題解決的な学習を充実させ、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	地域の方や外部講師を招いて、様々な体験活動を行なうことができた。児童は、自らが立てた課題に対して、意欲的に解決していこうと主体的に活動している。引き続き、体験活動を充実させ、主体的な態度を育てていきたい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	57	43	0	0
			後期	B	前期から評価を下げた。自ら考え、判断し、主体的に実践する態度の育成には、時間を要する。児童の主体性を育むため、地域・外部の機関と連携し、体験的・問題解決的な学習を計画し、継続的に実践していきたい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	57	43	0	0
		指導過程、指導法の工夫を図り、豊かに表現する力を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	B	学年の児童数が減り、学習課題について児童同士で話し合わせたり考えを比べたりすることが十分にできていない。言葉だけでなく、文章や絵、タブレットなどを使って表現したり、自分の思いを表現する場を設定したりするなど、今後も指導法の工夫をしていきたい。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	B	82	73	9	18	0
			後期	A	前期から評価が上がった。授業研究を行うことで、よりよい指導法について研修を進めることができた。また、児童朝会や全校話し合い活動等で自分の考えを表現し交流できるような場面が多くあった。今後も、児童に多様な表現方法が身に付くようにしていきたい。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	A	91	27	64	9	0
	家庭学習の習慣が身に付いているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	高い評価になっている。学年に合った時間に足りていない児童もおり、宿題の量を調整したり自主学習を進めたりするなど、個に応じた家庭学習が取り組めるようにしたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	B	82	46	36	9	9	
					児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	A	100	57	43	0	0	
		後期	A	引き続き高い評価となった。自主学習の質の向上が見られる児童もいる。個に応じて宿題の量を調整したり、学習時間を記録できるようにしたりするなど、学年に合った時間を意識させる取組を工夫したい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	C	73	27	46	27	0	
					児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	A	100	29	71	0	0	
		自他の生命を尊ぶ、優しい心を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	異学年での活動が多く、上級生が下級生に対して声掛けをしながら、助け合ったり協力したりすることができている。道徳科や学級活動の学習を通して、自分の生活を振り返る時間を充実させたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	36	64	0	0
						児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	43	57	0	0
	後期		B	当番や掃除、全校お楽しみ会など、みんなのことを思いやった言動が多く見られた。一方、相手の気持ちを考えない言動もある。教職員で情報交換をしながら、繰り返し指導を続けたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	91	36	55	9	0	
					児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	43	57	0	0	
	人とふれあい、思いやりの心・感謝の心をもち、自ら実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員、地域住民80%以上が肯定(3・4)		前期	A	継続した指導が実践につながり、全体的に高評価である。しかし言葉遣いについては教職員とのずれが大きい。児童が課題意識をもてるように、その都度声掛けや指導をしたり、相手を思いやる言動について考えさせたりしていきたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	A	100	45	55	0	0
						児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	A	100	57	43	0	0
		後期	B	前期から評価が下がった。正しい言葉遣いを意識して話せるようになってきているが、あまり考えずに発した言葉や態度で相手を嫌な思いにさせることがある。3学期にいじめに関する道徳科や学級活動の授業を繰り返し行った。学習したことを自分事として捉えて、生活に実践しようとする児童を継続的に行っていきたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	C	73	37	36	27	0	
					児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	A	100	29	71	0	0	
学校は、各学年の発達段階を考えながら、人権・同和教育を適切に行っているか。 目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)		前期	A	全体計画を基に、学年に応じた人権・同和教育を行っている。引き続き、学校の教育活動全体の中で、人権意識をもって指導に努めたい。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	14	86	0	0	
					児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	25	75	0	0	
	後期	A	全教職員が、教育活動全体の中で児童を見守り、情報交換をしながら指導に当たった。今年度は、人権・同和教育参観日を開催できなかったため、来年度はぜひ多くの方に御来校いただき、学校の取組や児童の様子を参観していただきたいと思う。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	29	71	0	0		
				児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	25	75	0	0		
	前期	B	今年度から登校後に本の返却・貸出を行い、8時に朝読書をスタートするようになり、子どもたちは集中して読書に取り組んでいる。幅広いジャンルに親しめるように読み聞かせや本の紹介をしていきたい。	児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	B	82	55	27	18	0		
				児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	B	86	43	43	14	0		
後期	A	前期より評価が上がった。朝読書が定着し、貸出冊数も増えてきている。教科等と関連づけた本を紹介したり、その学年で読んでほしい図書を設定したりするなど、本の楽しさに気付くような仕掛けを工夫していきたい。	児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	A	91	73	18	9	0			
			児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	B	86	14	72	14	0			
学校関係者評価委員の所見	・これからの時代を生きる児童にとってICTを上手に使いこなせる技術は必要であるから、授業や宿題での活用をお願いしたい。 ・時代や社会の変化のスピードが速く、変化に対応することが常に求められている。学校で本質を見極めて指導し続けてほしい。	学校の対応	・「確かな学力」の育成のため、引き続き、全ての教育活動において複式指導力向上と個に応じた指導による基礎・基本の確実な定着を図りたい。また、ICTの効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実に努め、児童が社会を生き抜く力を身に付けられるよう指導・支援していきたい。 ・佐礼谷ならではの教育活動を展開し、他人を思いやる心や感動する心、社会貢献の精神の育成に努め、豊かな心を育みたい。									

生徒指導	生徒指導の徹底	前期	A	肯定率が高かった。今年度は、佐礼谷に響き渡る挨拶を目指して、全校で目標を決定した。一人一人ががんばりたいことを設定し、前向きに取り組むことができていた。継続して実践することで、全員が自信をもって、元気の挨拶ができるよう指導していきたい。	児童②あい	B	82	55	27	9	9	
		後期	A	肯定率が高かった。挨拶に関しては、生活目標として取り組んだり、児童会の提案によって「あいさつチャンピオン」を決めたりするなどしたことで、一人一人が自分のめあてを持って挨拶をすることができた。今後も、継続的に活動を行い、基本的生活習慣の形成に努めていきたい。	児童②あい	C	73	27	46	27	0	
		前期	B	友達同士でのトラブルは、いくらか起こっている。些細なことでも軽んじず、教職員間で情報共有を密にしたり、保護者とも連携を図ったりすることで、未然防止・早期発見・早期対応につなげていきたい。	児童							
		後期	A	前期から評価を上げた。小さなトラブルも情報共有を密にすることで、早期に対応することができた。児童のちょっとした変化にも気付き、温かな声掛けをしていくことで、前向きな成長ができるように支えていきたい。	児童							
学校関係者評価委員の所見	<p>・登校中や学校内での挨拶は、よくできる児童とあまりできない児童の差が大きい。学校以外でも挨拶ができるようになってほしい。</p> <p>・不登校および不登校傾向の児童がいないことは大変喜ばしい。小さなきっかけで学校に来られなくなるケースもあるので、引き続き、家庭と協力しながら対策してほしい。</p>		学校の対応	<p>・挨拶については、児童に課題意識を持たせ、学校の生活目標として適宜設定したり、振り返りカードを活用したりしながら、年間を通じて定着を図る。</p> <p>・自ら気付き、考え、力いっぱい実行する児童を目指して、主体的に活動に取り組み、判断できる場を意図的に設ける。また、家庭との連携を密にし、いじめや不登校等の問題の未然防止に努めるとともに、教職員が一丸となって早期解決できる体制を維持する。</p>								
保健管理	健康教育の推進	前期	C	児童、保護者、教職員ともに、早寝早起きについて改善が必要だと感じている。ゲームや動画視聴により就寝時刻が遅く、学校で睡眠不足や体調不良を訴える児童も多い。その都度指導をするとともに、毎月生活習慣調べを実施し、家庭と連携しながら、指導の充実を図ってきたい。	児童④寝起	C	64	46	18	27	9	
		後期	A	前期に比べ評価が上がった。毎月、生活習慣調べ「ハッピー貯金」を実施することにより、児童・保護者の意識を高めることができた。今後はハッピー貯金の結果を活用した保健指導を充実させていきたい。改善が難しい児童への個別指導や保護者への啓発もしていきたい。	児童④寝起	B	82	27	55	18	0	
		前期	C	児童・教職員共に姿勢に関する肯定率が低い。正しい姿勢について、声掛けをしたり、体幹を強化する運動を継続的に取り入れていきたい。また、個に応じた体力作りとして日々の体育授業、業間マラソンや体育集会において、自ら目標を設定して、取り組めるよう指導の工夫と改善に取り組んでいきたい。	児童⑥体力	A	91	73	18	9	0	
		後期	A	前期に比べ評価が上がった。前期に肯定率の低かった姿勢については、代表委員会で話し合い、図書掲示委員会の児童がポスターを作成して各教室に掲示し、正しい姿勢について啓発を行った。また、個に応じた体力作りとして、体育授業、業間マラソンにおいて、児童自身が自分に合った目標を立てその目標に向かって取り組むことができた。	児童⑥体力	A	100	73	27	0	0	
学校関係者評価委員の所見	<p>・小学校の間に身に付けさせたい基礎体力をしっかりと指導していただきたい。個人差があるようなので、全体がレベルアップできるよう努めてほしい。</p>		学校の対応	<p>・今後も、児童の健康・安全に対する的確な判断力・行動力などの自己管理能力の向上を目指して指導・支援を継続するとともに、家庭と連携しながら健康教育を推進する。また、授業や業間マラソンなどの機会を通じて、個に応じた体力づくりと基礎的運動能力の向上を図る。</p>								
保護者・地域との連携	地域に根ざした特色ある学校づくり	前期	A	四者ともに肯定率が高い。しかも「大変よい」への回答率が高く、地域に根ざした学習ができていると考えられる。今後も生活科や総合的な学習の時間等、保護者・地域の協力を得ながら、充実した学習を進めていきたい。	児童⑬	A	100	64	36	0	0	
		後期	A	後期は、学校行事が多く、学習内容をまとめる段階であったため、地域に出向いたり、地域の方々に教を請うたりする場面は、前期より少なかった。しかし、太鼓や万歳に関しては、継続的に御指導をいただきながら技を磨くことができた。	児童⑬	A	100	64	36	0	0	
		前期	A	全体的に肯定率が高い。本校は、地域の関係諸機関と連携を取りながら進めている行事が多い。地域の中にある学校という認識を持ち、今後も情報を共有しながら、よりよい教育ができるよう協力していきたい。	児童							
		後期	A	後期も全体的に肯定率が高い。しかし、地域住民の方の中には、「1：改善を要する」と感じられている方がおられる。そのことを真摯に受け止め、今後もさらに各関係機関と連携を深めながら指導に当たってきたい。	児童							
学校関係者評価委員の所見	<p>・1年間を通じて、子どもたちの成長を感じる。卒業生や地域住民とのコラボレーションによる発表の機会も検討してほしい。</p>		学校の対応	<p>・学校の教育活動に協力してくださる多くの地域の方々との共通理解と協働実践により、地域に根ざした活動や交流を効果的に展開し、佐礼谷小学校のよき伝統を継承していきたい。</p>								

研修	教職員の資質と指導力の向上	前期	C	1学期は、まだ研修が軌道に乗っておらず、評価はCであった。今後、複式学級における効果的な学習の進め方や、ICTを利用した効果的な学習等について研修を深め、実践につなげていきたい。	児童 保護者 教職員⑱ 地域住民											
		後期	A	後期は、各学級担任が複式の授業実践を行うことができた。複式授業を参観する機会も多くない中、貴重な実践から、さらなる授業のヒントを見つけたり、自身の授業の進め方を振り返ったりすることができた。今後も、日々の実践を振り返り、授業改善に努めたい。	児童 保護者 教職員⑱ 地域住民	A	100	100	0	0	0	0				
		前期	A	学校・家庭・地域が連携するためにも、重要な内容であり、高い肯定率を得られている。「4：大変よい」がさらに増えるよう、今後も保護者・地域とのコミュニケーションを大切にしていきたい。	児童 保護者⑮ 教職員⑱ 地域住民⑧	A	100	28	72	0	0					
		後期	A	前期に引き続き、高い肯定率を得られている。コロナ禍で実施できなかった活動や会合も徐々に復活してきており、教職員同士、保護者と教職員、地域住民と教職員のつながりやコミュニケーションの場を大事にしていきたい。	児童 保護者⑮ 教職員⑱ 地域住民⑧	A	100	14	86	0	0					
	学校関係者評価委員の所見			学校の対応		・本校の目指す教師像「子どもと共に歩む教師」「使命感と情熱のある教師」「人間愛に満ちた教師」を念頭に、引き続き、指導力の向上、コミュニケーション力の発揮に努めたい。										
安全管理・施設管理	安全安心でうるおいのある学校づくり	前期	A	保護者や地域の方々が、児童の登下校の見守り活動に協力してくださり助かっている。危険箇所の点検を行い、現状でできる限りの安全対策を講じている。児童も、安全に気を付け、落ち着いて登下校することができている。	児童⑦ 保護者⑯ 教職員⑱ 地域住民⑨	A	100	91	9	0	0					
		後期	A	保護者や地域の方々の御協力により、後期も、児童は安全に登下校をすることができている。しかし、前期と比べ、児童の評価数値が「4：大変よい」から「3：よい」に少し移動している。今後さらに、全員が安心して登下校できるように努めていきたい。	児童⑦ 保護者⑯ 教職員⑱ 地域住民⑨	A	100	82	18	0	0					
		前期	A	教職員が協力し合って、児童が過ごしやすい教室や校内環境を整えられている。また手が行き届かない部分は、保護者や地域の方々に助けていただき、よりよい環境の中で日々の教育活動を行なうことができている。	児童 保護者⑱ 教職員⑲ 地域住民⑩	A	100	57	43	0	0					
		後期	A	児童の学習の成果や活動の様子が分かるような校内掲示や環境整備に努めてきた。しかし、地域住民の方の中には、「3：やや改善を要する」と感じられている方がおられる。さらに、校内外の環境整備に努めていきたい。	児童 保護者⑱ 教職員⑲ 地域住民⑩	A	100	29	71	0	0					
	学校関係者評価委員の所見			学校の対応		・住民自治されだにや交通安全協会、関係諸機関との連携に努め、児童・保護者・地域住民が安心して過ごせる学校環境づくりに努めていく。 ・児童数の減少、家庭数の減少に伴うマンパワー不足が生じているが、教育後援会の組織を活用しながら、可能な範囲で校内外の環境整備を図っていく。										
業務改善	働き方改革と業務の効率化による心身の健康保持	前期	C	教頭が不在となり、校務分掌の分担バランスを試行している状態である。作業の効率化を図りたい。	教職員21	C	75	0	75	25	0					
		後期	C	少ない人数で最大の効果が上げられるよう、教職員で納得解を見いだしていきたい。	教職員21	C	75	0	75	25	0					
		前期	C	職場内の環境改善は、まだまだ改善の余地がある。市教委との連携も深めたい。	教職員22	C	75	0	75	25	0					
		後期	A	前期より高い評価となった。対外行事等が夏～秋に集中することから、年間のバランスを整えたい。	教職員22	A	100	25	75	0	0					
		前期	D	毎月、45時間越えの職員が一定数いる。時間短縮できるよう、工夫・改善を継続する必要がある。	教職員23	D	50	50	0	25	25					
		後期	C	改善の方向が見られている。対外行事の大幅な見直しも始まり、児童の練習時間のあり方も検討したい。	教職員23	C	75	50	25	25	0					
		前期	A	100時間越えの過度残業はないが、月45時間以内を目標に、効率化を図りたい。	教職員24	A	100	100	0	0	0					
		後期	A	前期に引き続き、過度残業の実態はないが、優先順位をつけながら、効率化を図りたい。	教職員24	A	100	100	0	0	0					
	学校関係者評価委員の所見			学校の対応		・昨年まで地区役員に持参していた連絡文書を郵送にしたり、会合の数や内容を精選したりすることで、負担軽減を図っているが、さらに効率化できる部分を見つけて、実践していきたい。										

ご意見等

<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人に向き合って、生活や勉強等を見てくださって、感謝している。 ○ 一人一人の児童に寄り添った教育、指導ができていると思います。 <p>(地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校通信「はいたか」によって、校長先生をはじめ先生方が細やかに熱心に児童と向き合い、指導して下さる様子に感謝している。 ○ 学校防災モデル事業では立派な発表ができました。先生方のご指導に頭が下がります。 ○ 「防災マップに取り組んで」立派な冊子が出来ました。地域の自慢です。 ○ 小学校が地域にあることで若返り、多くの世代が学び続けるきっかけとなっていると思います。 ○ 児童に対する先生が一つになり子どもたちへの思いやりや優しさを持ち、それぞれの学年にあった取り組みを行っていると思う。 ○ 少人数だからこそのきめ細かい教育ができている学校であると感じています。 ○ 俳句を頑張っていて、新聞に掲載されていることが楽しみです。 ・ これからも児童数の減少が予測される中、保護者がどのような考えでおられるのか知りたいと思うことがある。 ・ 地域の小学生がいなくなり、秋の亥ノ子歌も聞けないのではないかと寂しい。 ・ 小規模校のため、先生にも、保護者にも、子どもにも負担がかかっている気がする。 ・ 学校と保護者、学校と地域住民のコミュニケーションを大切にしていきたい。
